

つながり、高め合う学校づくり

～学校関係者評価等を活用した学校改善への支援～



上越市教育委員会

平成23年10月28日(金)

新潟コンベンションセンター

学校評価における課題

- 1 教職員の協働態勢が不十分で学校評価へのかかわる意識が低い。
- 2 教育の質の保証の中核をなす授業改善への結び付きが弱い。
- 3 児童生徒や保護者、地域住民との連携が不十分である。

※アンケート実施で、負担をかけているが目的と活用が不十分



上越市としての学校の自己評価や学校関係者評価の指針を示す

上越市の目指す学校評価

**「学校と地域がつながり、
高めあう学校づくり」**

○課題解決に向けて、学校が組織として(教職員が協働して)取り組む

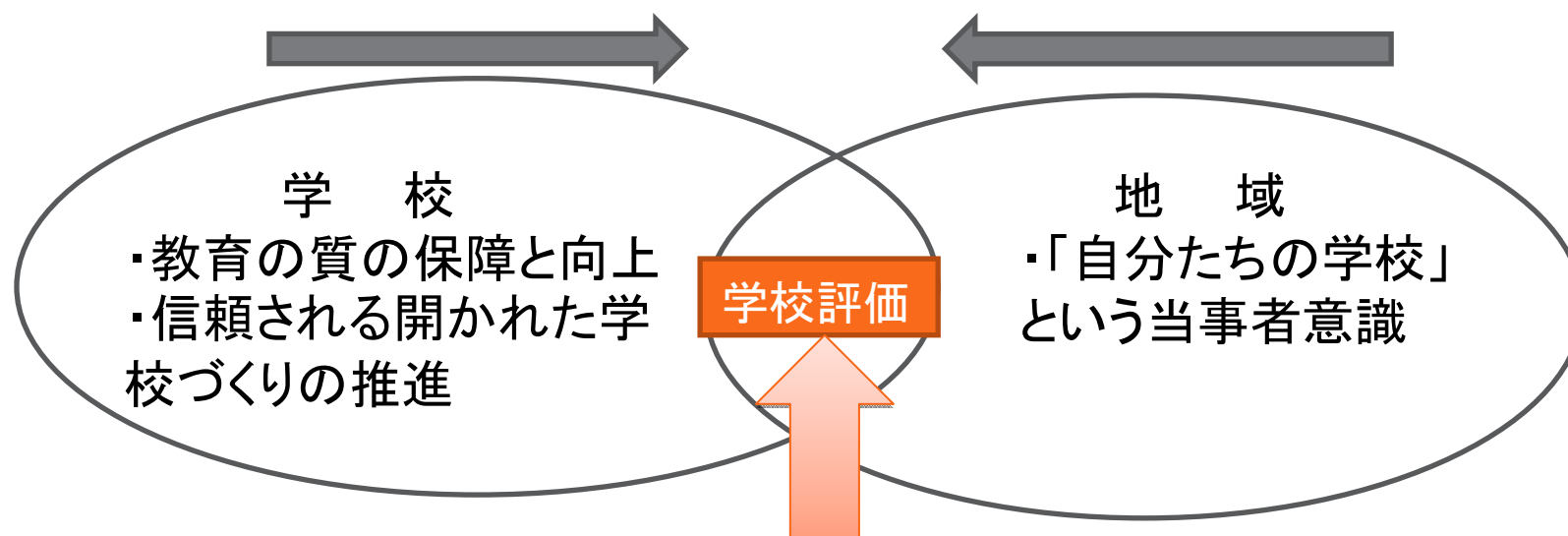
○家庭や地域が学校と情報を共有し、学校だけでは実現困難な事に協力し合う

(連携と協働により、授業改善などを行い、質の高い教育を実現する)

学校と地域がつながり、高め合う学校づくりのポイント

○学校評価(自己評価・学校関係者評価)の充実

○評価結果を活用した学校改善の推進



・実態や課題の明確化と共有

・学校運営の改善・具体的な方策の提案や検討と行動連携

・学校改善の力や組織マネジメント力の向上

リーフレットを作成し配布

学校関係者評価の進め方

～評価委員になられた皆様のために～

◆学校評価とは

- ・『学校をよくする』ために、学校・保護者・地域の皆様の協力によって行われる活動であり、優劣を付けるためのものではありません。

◆学校評価の実施のかたち

- ・学校評価の実施手法には、「自己評価」と「学校関係者評価」があります。

学校関係者評価の進め(ポイント)

1 評価委員会の組織編成



(戦略的な視点から理解者・協力者を開拓する)

2 目的等の説明と意見交換



(評価の目的や学校の取組を丁寧に説明する)

3 主体的・能動的な評価活動



(授業公開や行事などの機会ある毎に声掛け)

4 学校自己評価結果の評価



(学校側の報告事項や聞きたいことを整理する)

5 学校関係者評価結果の活用

(評価結果や要望・提言に対する手立てを示す)

評価委員会の組織編成の工夫

○A中学校区では、小中、小小連携で、共通の評価委員会を設置している。

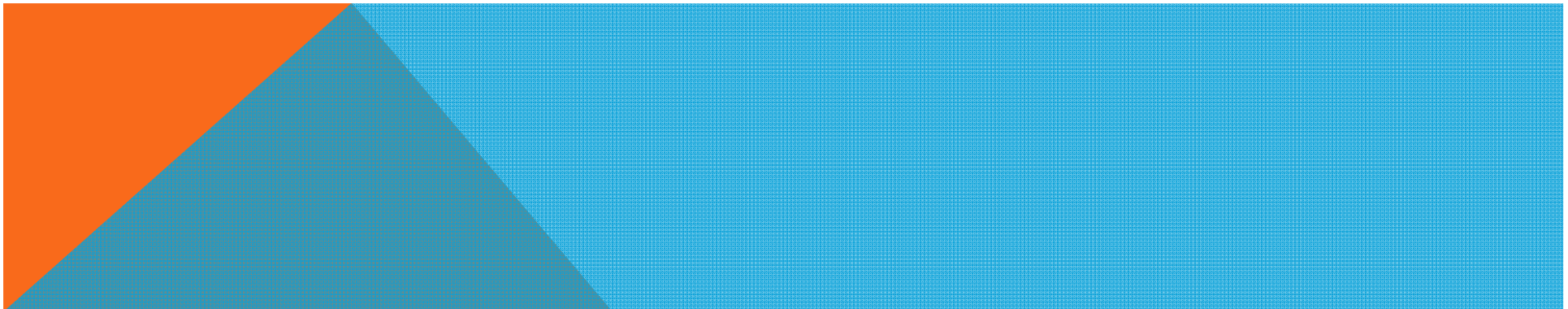
➡ 小・中の円滑な接続の視点をもった効果的な学校評価が期待できる。

○B中学校では、卒業生や元保護者や他地域の事情に明るい保護者などの登用を行っている。

➡ 以前との比較や、他地域との比較で学校の課題が明確になる。

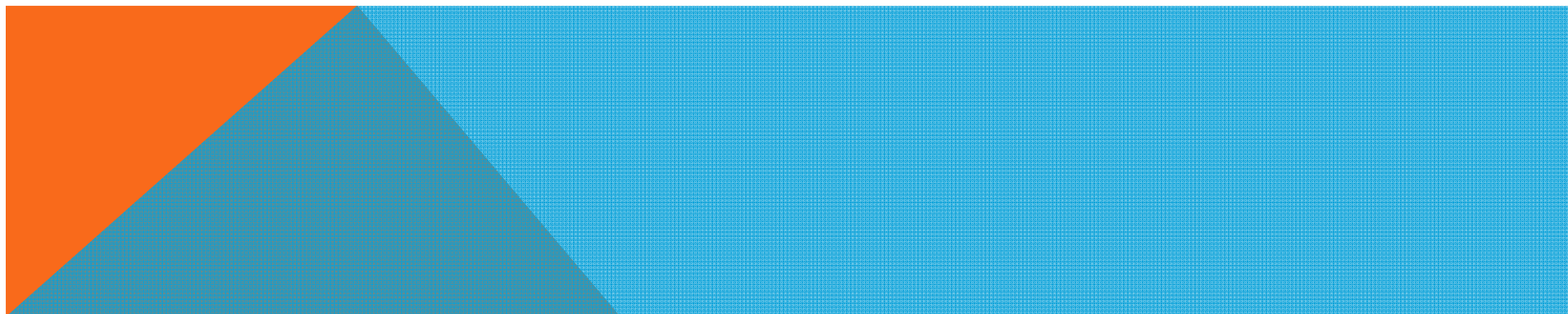
○C小学校では、特別支援教育について、日ごろから関係の深い医療機関、企業、授産施設の機関の方々を登用している。

➡ 子どもの特性に応じた専門的な議論から、改善策につなぐ。



学校関係者評価における成果

- 1 保護者・地域住民とのかかわりが深まる。
- 2 学校の取組に保護者・地域住民から共感的な理解が得られる。
- 3 学校関係者評価を実施するプロセスで、学校の理解者・協力者が増える。



地域の教育力向上に向けた支援

中学校区ごとに

「地域青少年育成会議」を設置

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という意識の向上
- ・地域と学校の連携

地域

いい地域は
いい学校を作る



学校

いい学校は
いい地域を作る

学校関係者評価委員・学校
評議員として選出され、地
域と学校の連携や小中連
携が図られる。

上越市学校評価システムガイド（第2集）



<作成の意図>

各学校が。共通の目的意識を持って学校評価や学校関係者評価を推進するため

内容

- 自己評価の進め方
 - 学校関係者評価の進め方
 - 学校評価の報告
- ・・・など

学校評価報告書

学校評価報告書の書式と掲載内容

平成 年度 学校評価報告書
上越市立〇〇学校 校長 〇〇 〇〇

- I 学校経営と総評
1 学校経営と今年度の取組

年度初めの「学校の現状（学校・児童生徒・保護者・地域等のよさや課題、前年度の学校評価の成果や課題）」を踏まえ、学校づくりのビジョン・経営戦略・中期目標等についてまとめる。
※内容項目等は各学校で工夫する。
★年度初めに記載する

- 2 今年度の成果と次年度に向けた課題・改善の方向

「II 重点目標等の評価」を概観し、今年度の重点目標等とそれに向けた取組の結果、どのような成果があったのか、どのような課題が残ったのか、そして、その課題解決のため、次年度はどのような方向で取り組むのか等について、概略を簡潔にまとめる。
※内容項目等は各学校で工夫する。
★年度末に記載する

II 重点目標等の評価

重点目標等・目指す姿	目指す成果・評価方法	具体的な取組
<p>自分の考えを述べて表現する子</p> <p>表現することに重点を置く。具体的な姿としては、大勢の前で堂々と発表できること、目的や相手を意識して話したり書いたりできることを目指す。さらに、学年での達成する姿を設定していく。</p>	<p>学年のねらいから、目的や相手に応じて、自分の思いや考えを話したり、書いたりできた子どもが80%以上になる。 【児童、保護者アンケート調査、教師の観察評価】</p> <p>大勢の前で自信をもって自分の思いや考えが話せた子どもが80%以上になる。 【発表児童の振り返り（自己評価）、教師の観察評価】</p> <p>授業担当の全ての教職員が、自己の課題に基づく伝える力をはぐくむ授業改善を実現する。 【児童の授業評価、教師の自己評価】</p>	<p>毎学期、2教科4単元以上重点単元を設定し、5つの言語意識を明確した「話す」「聞く」「書く」などの学習活動を意図的に位付け、授業実践を積み重ねる。</p> <p>毎月の全校参加の発表研究会や児童朝会、ペア学年での交流会や発表会など、全児童が一回は大勢の前で発表する場を設定し、事前指導を確実にを行い、自信をもって自分の思いや考えが話せるようにする。</p> <p>伝える力をはぐくむ校内研修で、職員が授業リフレクション（担任2回ずつ）や実践レポート（学期に2回ずつ）に取り組み、そこで学んだことを生かした授業改善を実施する。</p>
1		
		「II 重点目標等の評価」は、重点目標の数は、学校規模や学校課題等に応じて各学校で決める。
2		「重点目標等・目指す姿」「目指す成果・評価方法」「具体的な取組」は、「2 自己評価の進め方」(P12～21)を参照にして、工夫して設定する。 ★年度初めに記載する 途中、更新があった場合は、年度末の報告に変更する。
		重点目標や具体的な取組などを記述する3つの欄
3		

自己評価	総括	学校関係者評価	改善の方向
<p>今年度の本重点目標等とそれに向けた取組の結果、どのような成果があったのか、どのような課題が残ったのか、根拠を明らかにして自己評価結果を簡潔にまとめる。</p> <p>★年度末に記載する</p>		<p>「重点目標等」の達成度について、次の4段階で総合評価を行う。</p> <p>Ⅳ…十分に達成 Ⅲ…概ね達成 Ⅱ…未達成 Ⅰ…見直しが必要</p> <p>★「目指す成果」の達成度を参考にするが、あくまで「重点目標等」について評価する。「目指す成果」の達成度が高く、「重点目標等」の達成度が低い場合（逆の場合も）は、「具体的な取組」を見直す必要がある。</p> <p>★年度末に記載する</p>	
		<p>学校関係者評価委員会に学校の自己評価の結果を評価していただき、その結果や意見等をまとめる。</p> <p>学校関係者評価を行わなかった場合は斜線とする。</p> <p>★年度末に記載する</p>	
			<p>自己評価と学校関係者評価に基づいて、今年度の本重点目標等とそれに向けた取組の課題を次年度に向けてどのように改善していくか等についてまとめる。</p> <p>★年度末に記載する</p>

Ⅲ 教育委員会への要望・提言

今年度の学校評価の取組（学校経営・教育活動）を踏まえ、学校として教育の質の維持・向上のために、教育委員会へ要望・提言することを簡潔にまとめる。（当該校にかかわることか、全市の学校にかかわることかを明確化させるとともに、その要望・提言の理由・根拠を明示すること）

学校関係者評価で出された、教育委員会へ要望・提言することを簡潔にまとめる。（評価委員個人の意見でなく、評価委員会としての意見であることと、その理由・根拠を明示すること）

教育委員会への要望・提言の記入欄

Ⅳ 他の評価及び資料

1 県の学校教育の重点

学校教育の重点	成果と課題	評価

県の学校教育の重点について、成果と課題等を記述し、4段階評価を行う。
「Ⅱ 重点目標の評価」に含まれる場合は、重点目標の番号を記入する。
*本項目数については、県の方針等により変更する場合があります。

2 標準学力検査の結果

標準学力検査の結果（・NRT ・CRT）	実施年月日					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語						
社会						
算数・数学						
理科						
英語						

年度内に実施したNRTないしCRTの結果を小数第1位まで記入する。

学校自己評価における負担軽減のための支援

学校評価のためのアンケート集計・分析システム 「ハートアイアンケート」による支援

産学官連携共同研究プロジェクトとしてシステム開発中
(平成22年度～平成24年までに)

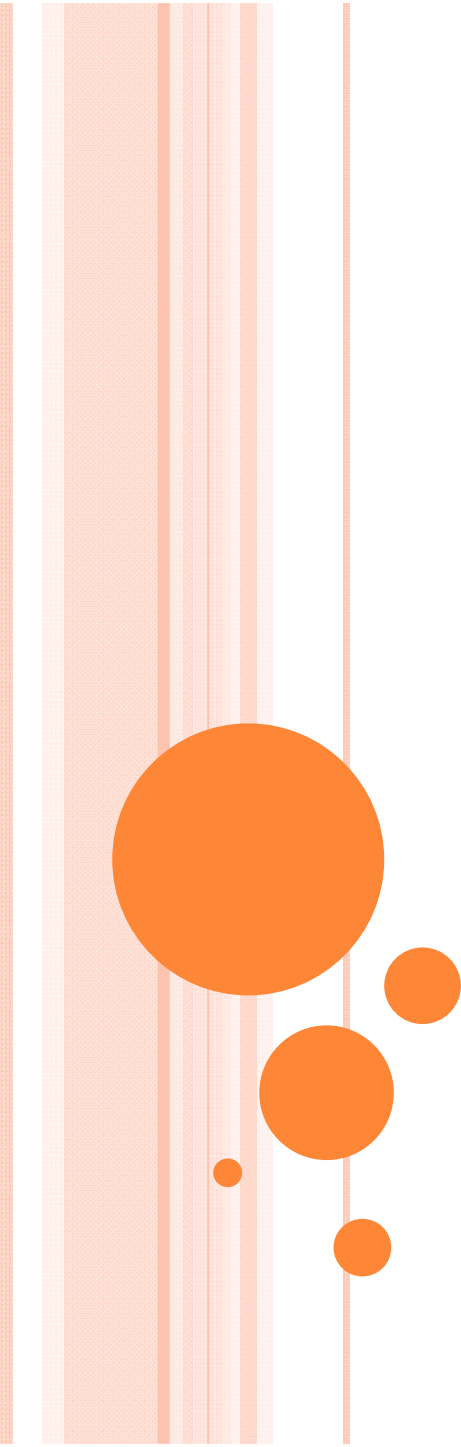
期待されるハートアイシステムの効果

- ・見えてくる学校課題
- ・子どもや保護者によりそう評価
- ・学校の多忙化解消

学校評価結果を生かした学校改善に向けた実践の成果

学校関係者評価等を活かして、地域と連携した取組が全ての学校において見取ることができる。

これまでの実践をもとに
平成24年度から市内の全ての学校で「コミュニティ・スクール」を実施する予定



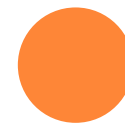
学校関係者評価等を活用した、
地域と連携して
学校運営の改善を図る方策

新潟県上越市立城西中学校

高橋 邦夫

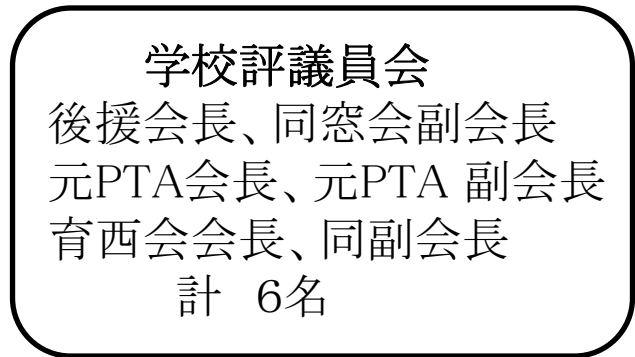
城西中学校の概要

- 生徒数 552名
- 学級数 通常学級 15学級 特別支援学級 3学級
- 職員数 58名
- 管内小学校 6校
- 上越市南西部の田園地帯 スキー発祥の地金谷山



評議員による学校評価(平成20年度まで)

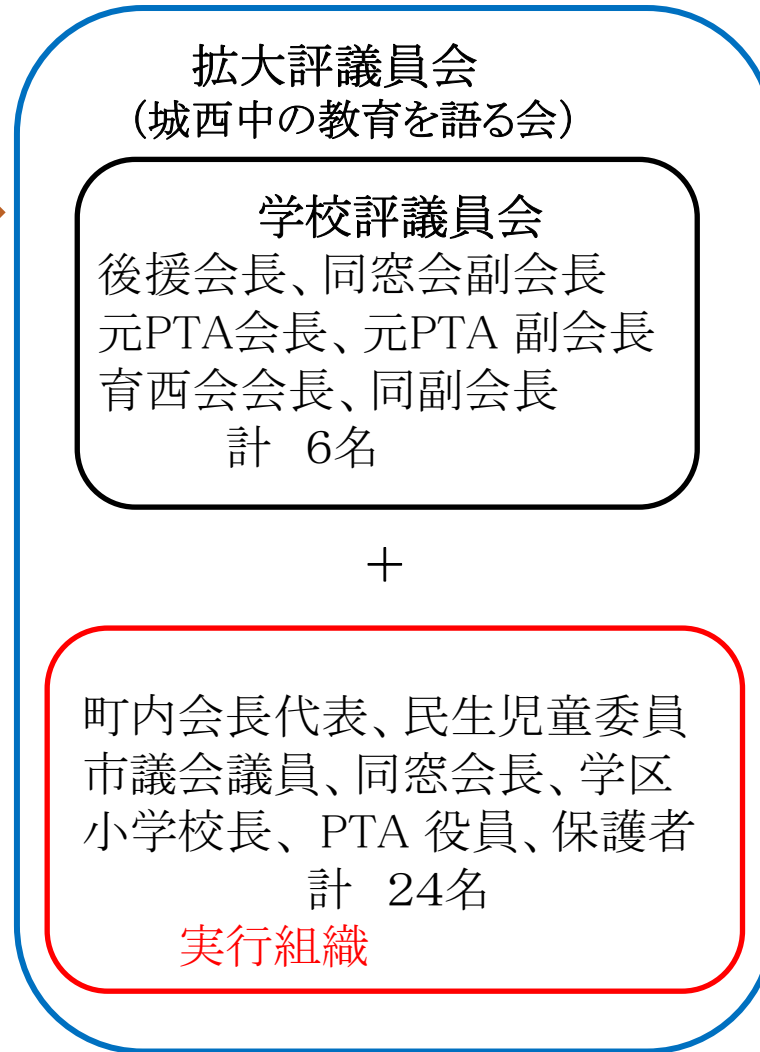
計画段階



拡大評議員会設置のねらい
・評価のまとめと提言は実際の学校の教育活動を1年間見た多くの地域・家庭の方の意見疑問を聴くことで学校の想いや願いを地域と共有化するため

成果・・・学校・家庭・地域が連携して子どもの教育活動にあたることの重要性の共有化が図られた。

評価のまとめと提言



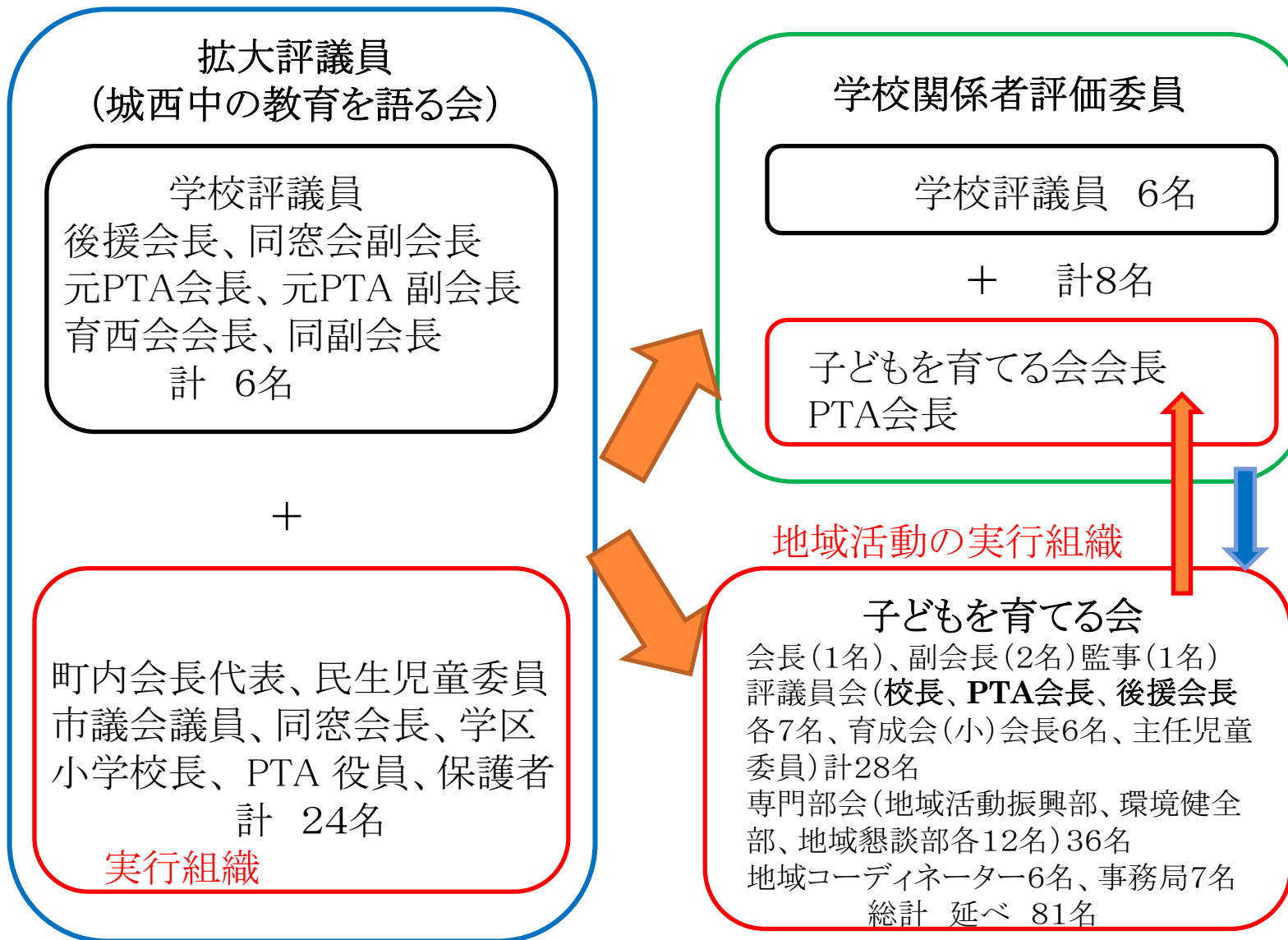
地域青少年育成会議の誕生(平成21年度)

- 6月23日 地域青少年育成会議が設立
(城西中学校区では
「城西中学校地域子どもを育てる会」という名称
以降、「子どもを育てる会と略す。)
市内22の中中学校区ごとに設置
目的・・・地域が主体的に地域の教育活動を考え、学校
と連携して地域の教育活動の中心となる組織
- 学校評議員から学校関係者評価委員への移行
従来の拡大評議員会に地域活動の実行組織の
メンバーが含まれていたことを生かした組織に変更

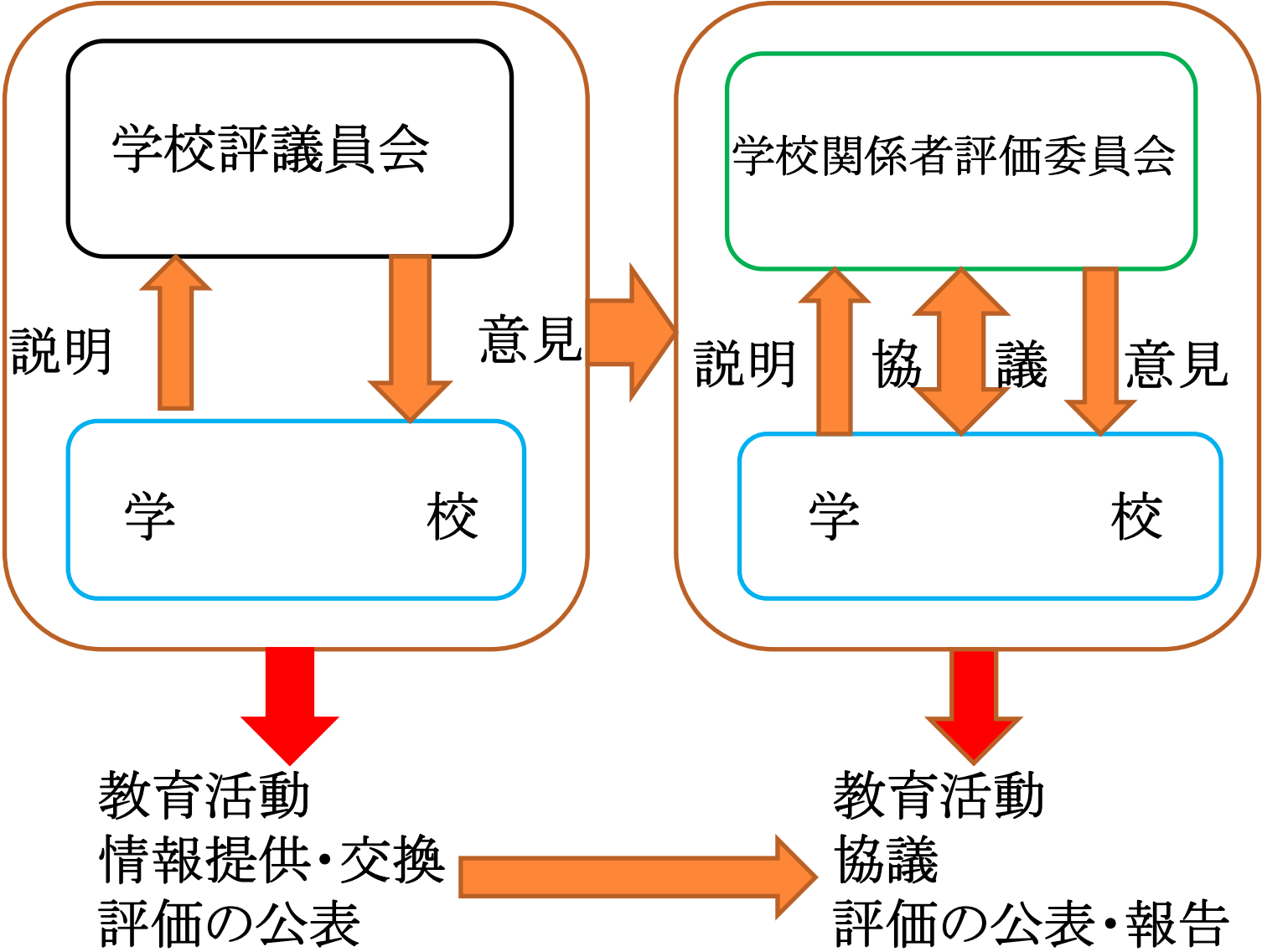
改善点・・・情報の受け取りから
学校評価計画書に基づく協議
(市教委の学校評価システムガイドの活用)



地域青少年育成会議(子どもを育てる会)の誕生 学校評議員から学校関係者評価委員へ

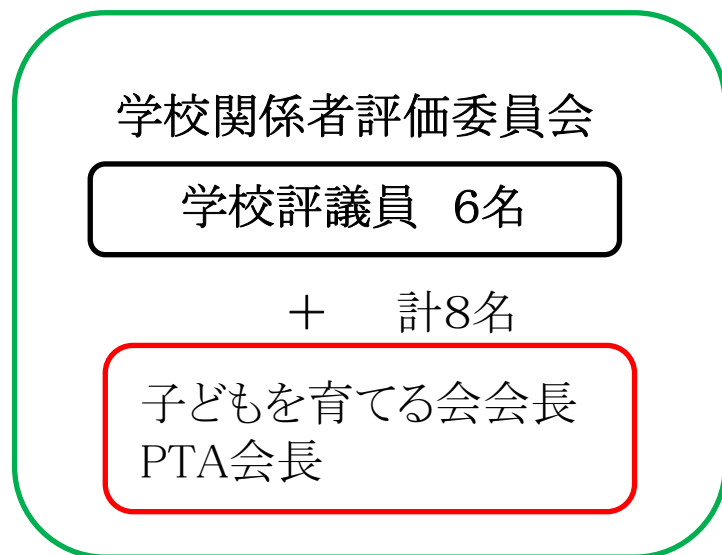


情報の提供・交換から協議へ、
公表から公表・報告へ



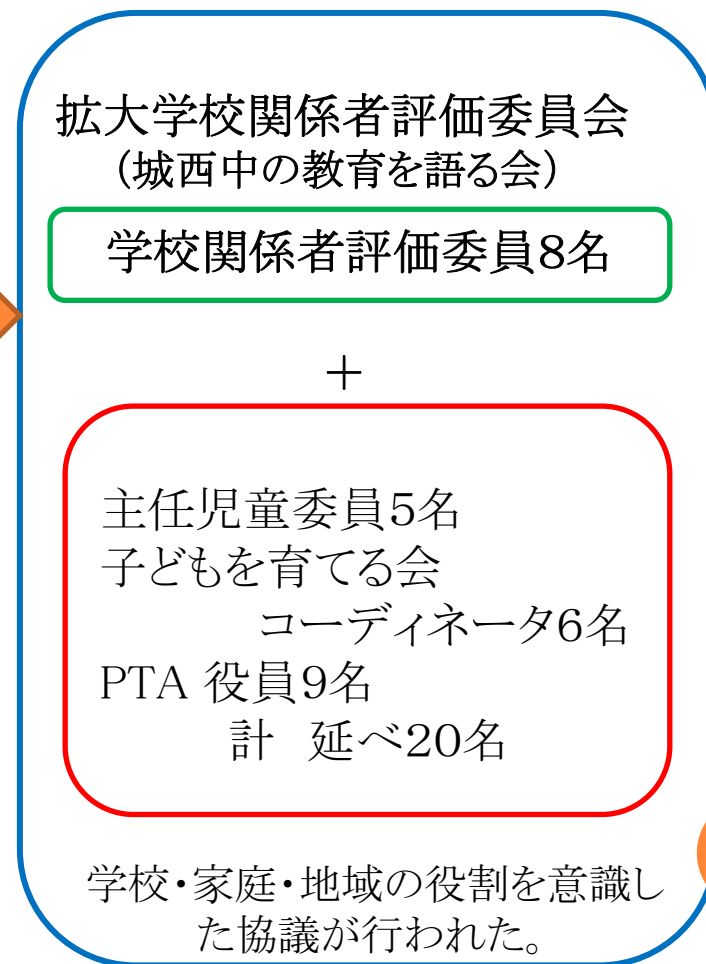
学校関係者評価委員による学校評価 (平成21・22年度)

計画段階

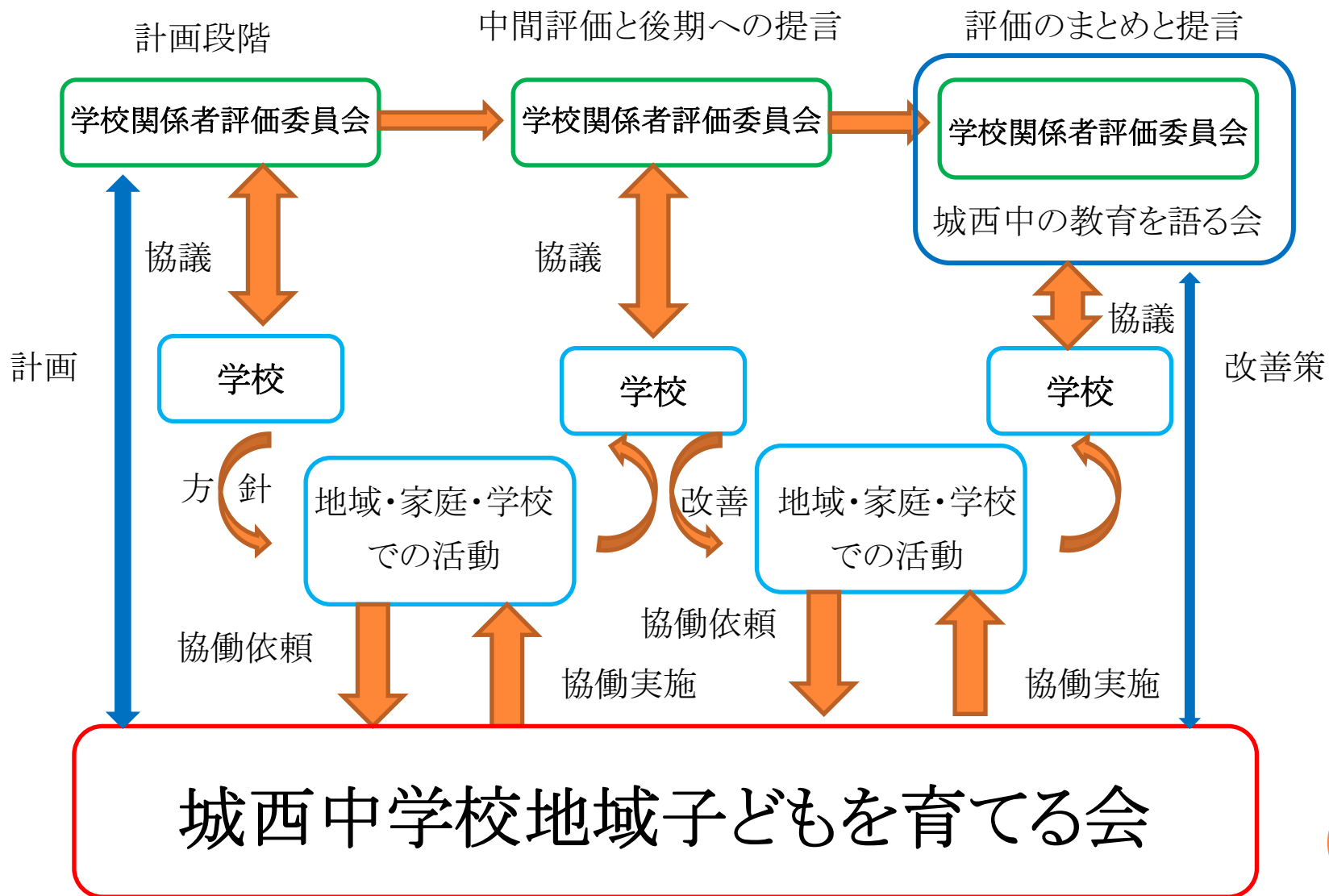


次年度につながる取組例
課題・・・睡眠不足による体力、学習意欲の低下
改善策・・・実態調査(小中養護教諭による)に基づく提言をまとめる。
成果・・・生活習慣改善のための啓発リーフレットの全戸配布
7学校保健委員会と子どもを育てる会の協働事業として地域を巻き込んだ活動

評価のまとめと提言



今年度の取組



今年度の取組

○ 地域との連携

- ・校区挨拶運動(年3回)

生徒会の挨拶運動キャンペーンの導入

- ・小中連携いじめ根絶集会「ハートとハートをつなぐ日」
(出身校へ中学生が出前)

事前の実行委員会の開催を小・中合同で(生徒主体)

一斉道徳授業の実施

子どもを育てる会のメンバーの参加

- ・地域の祭りへの中学生の参加

吹奏楽部による演奏会 + 体育祭パネルの展示

- ・地域三世代をつなぐ「感謝と希望の夕べin城西」コンサート

PTA組織が直接地域の方々へ働きかける活動



今年度の取組による効果

**テレビを消して早寝・早起き！
ゲームをやめて家族のふれあい！
ケータイ・ネット利用は保護者が責任をもって！**



城西中学校地域子どもを育てる会

健康づくり3つの提言

1 早寝・早起きをしましょう

朝は6時30分までに起きましょう。
夜は小学生は10時までに寝ましょう。
中学生は11時30分までに寝ましょう。

2 朝ごはんを必ず食べましょう

朝ごはんは、体と脳（心も）を目覚めさせ、学習効率や意欲を高めず、朝からボーッとしていることは少なくなります。

3 テレビやゲームとのつきあい方を見直し、 体と心を元気にしましょう

日本小児科医会の提言

- ①「テレビは2時間まで」「ゲームは30分まで」
- ②「家族でテレビやゲームを利用するルールを決めましょう」



ノータレビ・ノーゲームデーを推進します。

ケータイ・ネット利用 3つの提言

1 携帯電話を「持たせる・使わせる」 責任は保護者がもちましょう

様々な「ネットトラブル」が起っています。持たせること、使わせること、トラブルに対処することについては、保護者が第一義的責任をもちます。

2 ケータイ・ネットの利用には、 家庭内のルールをつくりましょう

携帯電話やパソコンの使用について、家庭で、時間・場所・料金・保護者のチェックなどについてのルールを決めます。

3 フィルタリングをしましょう

子どもが使用する携帯電話やパソコンには、必ずフィルタリング（危険なサイトに接続できなくなる機能）を設定します。



「インターネットとの付き合い方」を学ぶ活動を推進します。



早寝・早起き・朝ごはん

○ 早寝

- 11時30分までに寝る

	4月(5月)	9月	2月
平成22年度	50%	43%	40%
平成23年度	57%		

○ 早起き

- 6時30分までに起きる

	4月(5月)	9月	2月
平成22年度	36%	36%	35%
平成23年度	44%		

○ 朝ごはん

- 毎日食べますか

	4月(5月)	9月	2月
平成22年度	87%	88%	86%
平成23年度	91%		



城西中学校地域 子どもを育てる会からのお知らせ

☆ 第1回 城西中学校地域「あいさつ運動」を行います!

◇ 期 日 4月25日(月)～5月15日(日)の21日間

※ 「城西中学校地域 あいさつ運動」ですが、地域住民の皆様のご理解
とご協力により、地域に根付いた活動として5年目をむかえます。

今年も、のぼり旗が地域に立ちます。
新しい年度のスタートにあたり、子ども
やおとな関係なく積極的にあいさつを交
わし、あいさつのあふれる明るい町にし
ていきましょう!

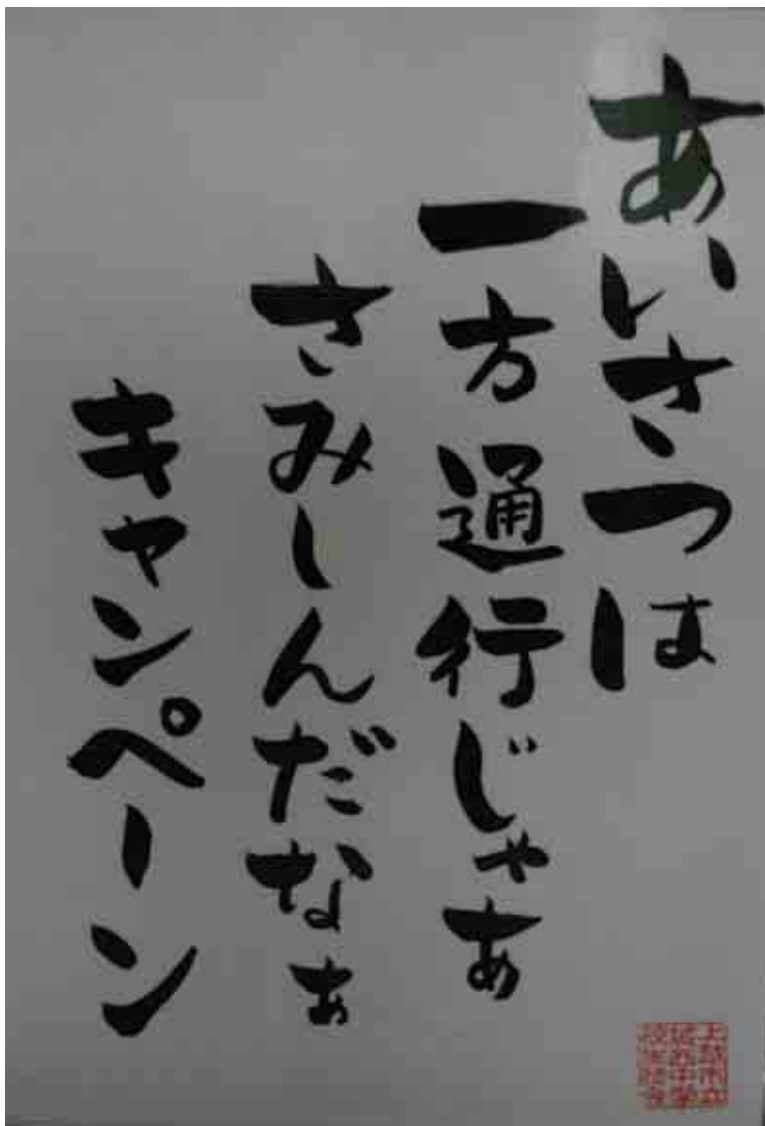


各問い合わせは、事務局までお願いします。

城西中学校地域子どもを育てる会事務局（城西中学校内）

電話：025-523-7222

生徒会のあいさつキャンペーン標語



明るいあいさつをしている。

	5月	11月	2月
平成20年度	57.7%	61.2%	66.5%
平成21年度	68.7%	76.2%	77.2%
平成22年度	64.9%	57.2%	58.7%
平成23年度	76.1%		



地域への案内

平成23年度
小中合同いじめ根絶スクール集会
ハートとハートを つなぐ日
～「今、私にできること」～

日 時： 平成23年10月14日（金）
午後2時～4時

場 所： 城西中学校地域の各小学校

参加者： 中学生（各小学校出身、又は現在その小学校区
あるいはその近くに住んでいる中学生）
各小学校5・6年生
保護者・地域の方々

プログラム

- 交流レクリエーション
- 「みんなで語ろう」
- 「約束しよう」



中学生が小学校へ行き、5・6年生と一緒に「絆づくり」や「いじめ根絶」について考えます。

小・中学生が協力し合い、話し合う場面をぜひご覧ください。
ぜひ、話し合いにもご参加ください。たくさんの皆様のお越しをお待ちしております。城西中学校地域 児童会・生徒会



小学生と中学生による(ハートとハート)検討会議



どんな理由があってもいじめはいけない

	5月	11月	2月
平成20年度	92.5%	88.8%	82.6%
平成21年度	84.4%	82.6%	79.5%
平成22年度	82.5%	89.9%	85.2%
平成23年度	92.0%		





雁木通り祭りへの参加



地域への
案内

感謝と希望の夕べ in 城西

小竹勇生山・ゆうざんファミリー

三味線コンサート

2011/9/27(火)

入場無料

18:30 開場 / 19:00 開演 / 20:00 終演

ところ 城西中学校 体育館



秋の夕べ
三味線の音色が
あなたの心に響く・・・



演奏曲 門付け唄
津軽じょんから節
津軽三味線オリジナル曲 他

主催：上越市立城西中学校PTA

お問い合わせは
城西中学校PTA事務局・高橋亨
TEL (025)523-7222 FAX(025)523-7223





感謝と希望の夕べIN城西



みんなで協力して何かするのは楽しい

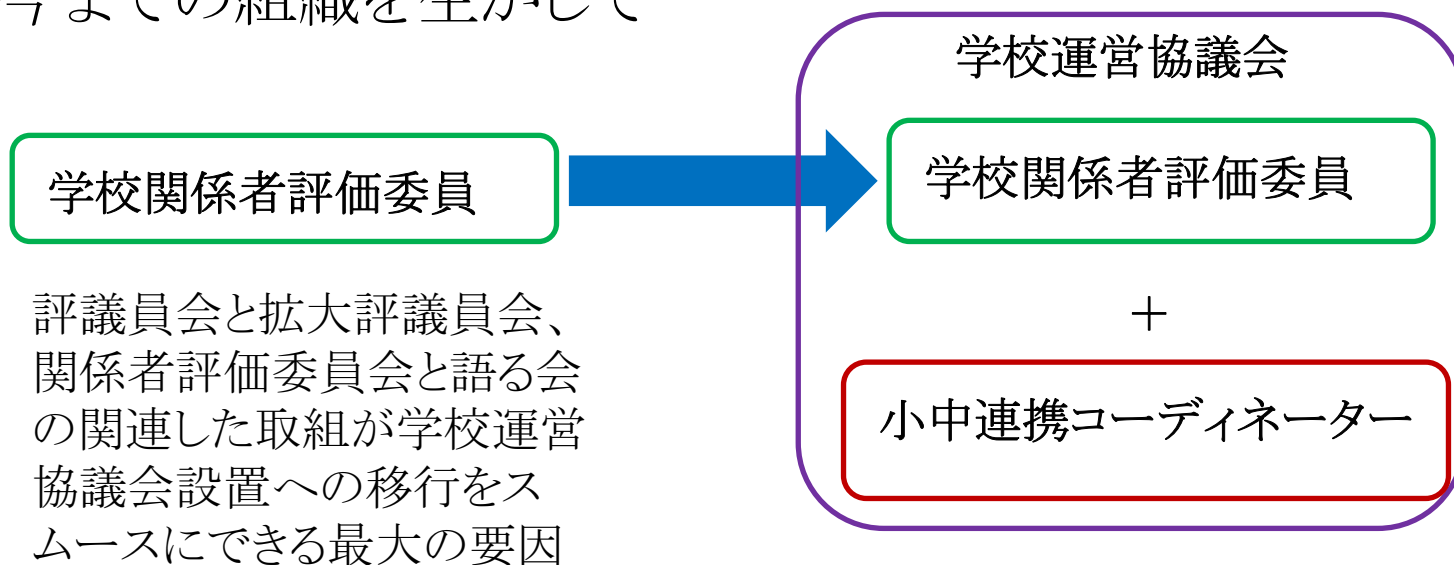
	5月	11月(9月)	2月
平成20年度	92.3%	86.6%	85.7%
平成21年度	82.3%	80.2%	83.5%
平成22年度	84.2%	90.5%	87.9%
平成23年度	88.4%	93.1%	



今後の取組

学校関係者評価委員会から学校運営協議会へ

- 平成23年度末までに
コミュニティスクール設置への準備
 - ・子どもを育てる会への説明
 - ・地域コーディネーターの役割の確認
 - ・保護者への説明
 - ・拡大学校関係者評価委員による平成24年度学校経営方針(案)に関する検討会議
 - ・平成24年度学校経営方針の決定とランドデザインの策定
- 今までの組織を生かして



学校運営協議会による学校評価

